

第6回金融コンファレンス

三井トラストフィナンシャルグループの 経営戦略



平成16年9月8日

三井トラスト・ホールディングス株式会社

内容

経営戦略

経営方針 ・収益構造の転換 ・ローコスト運営
業績ダイジェスト 部門別収益状況

業務運営状況

1. 貸出ポートフォリオの組替え
2. 手数料ビジネスの拡大

財務基盤強化

保有株式の圧縮 債券ポートフォリオ
繰延税金資産の圧縮

経営戦略

- 経営方針
- 収益構造の転換
- ローコスト運営
- 業績ダイジェスト
- 部門別収益状況

経営方針

三井トラストフィナンシャルグループ

経営の取組み

H16/3期

H17/3期

~ H19/3期

~ 収益力強化 ~

粗利益の拡大

ローコスト運営

収益構造の転換

徹底した効率経営

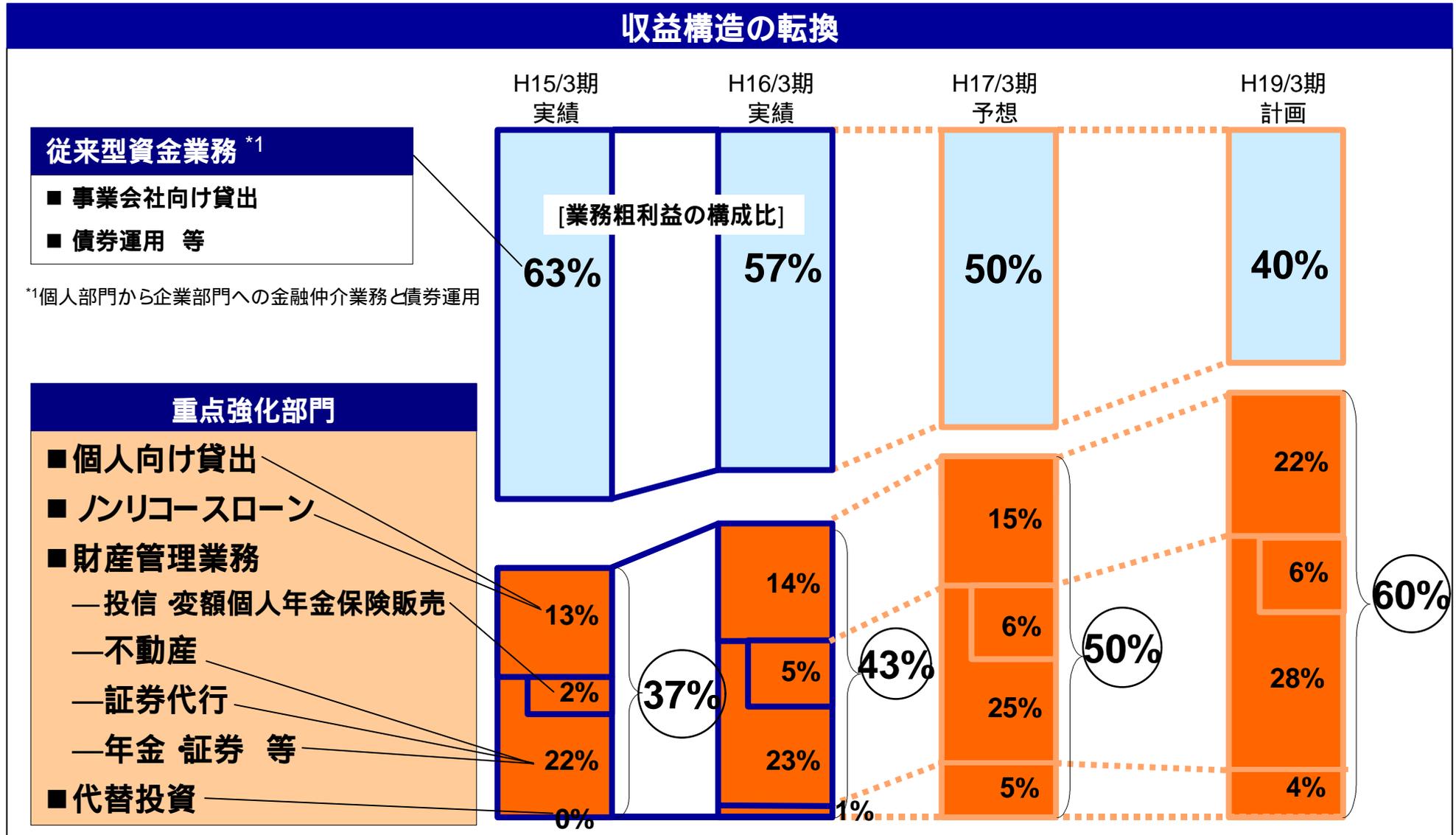
~ 財務基盤強化 ~

不良債権の最終処理
保有株式の圧縮

完了に目途

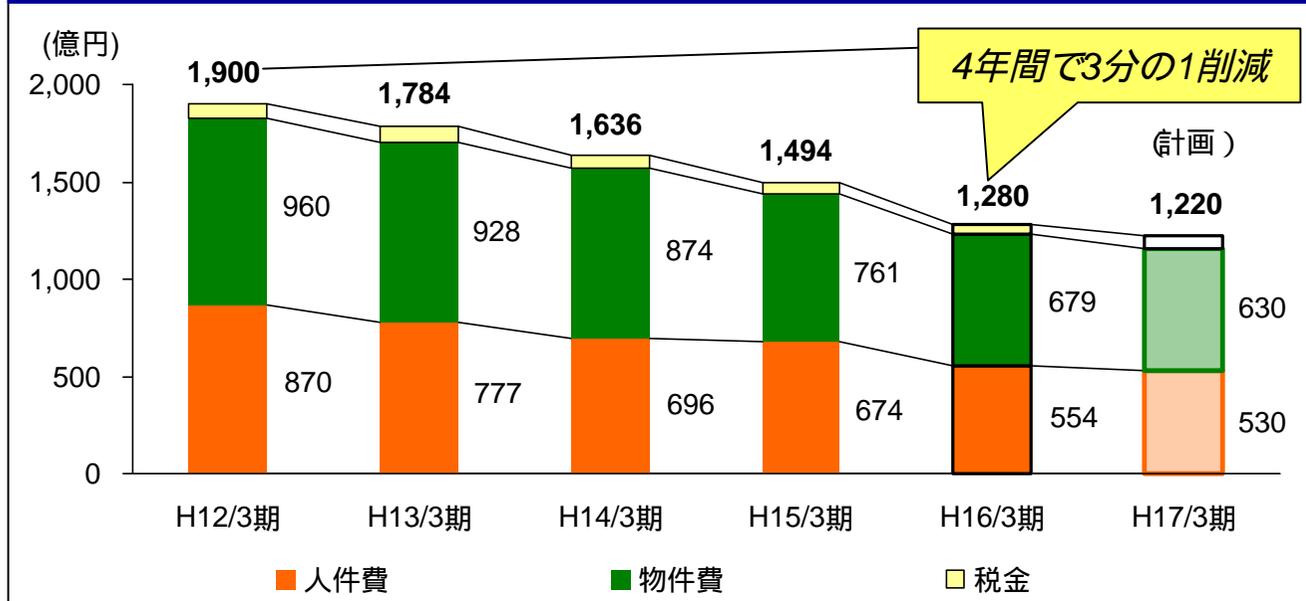
総仕上げへ

収益構造の転換

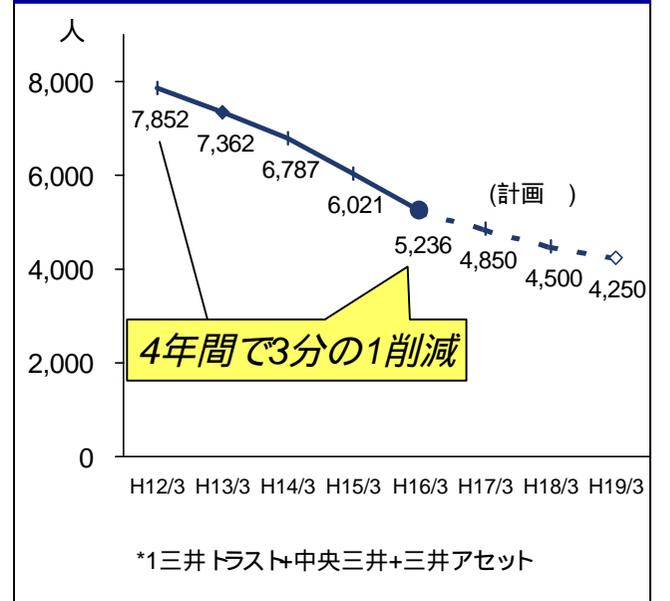


ローコスト運営

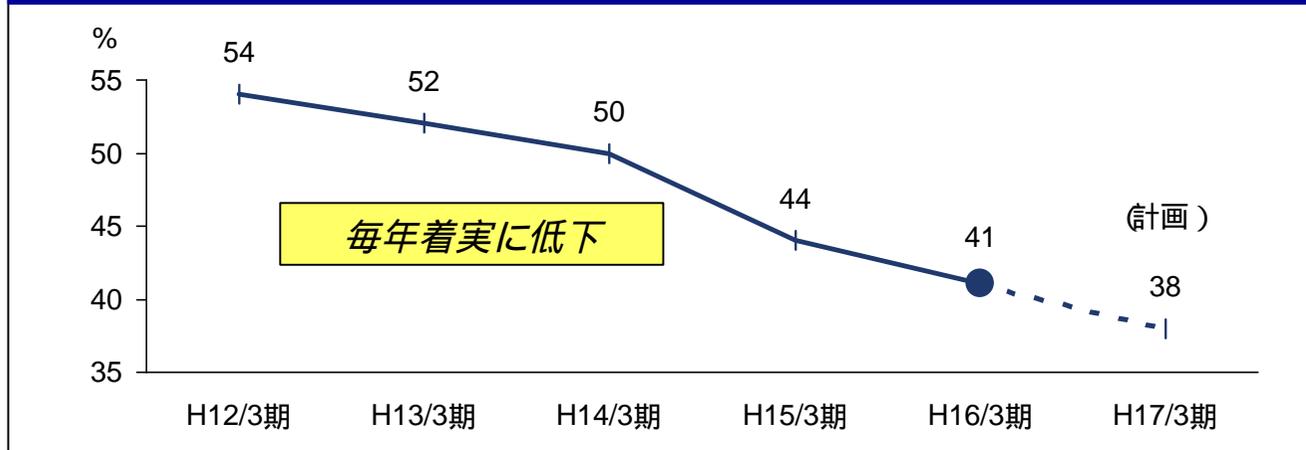
経費 (中央三井・三井アセット合算)



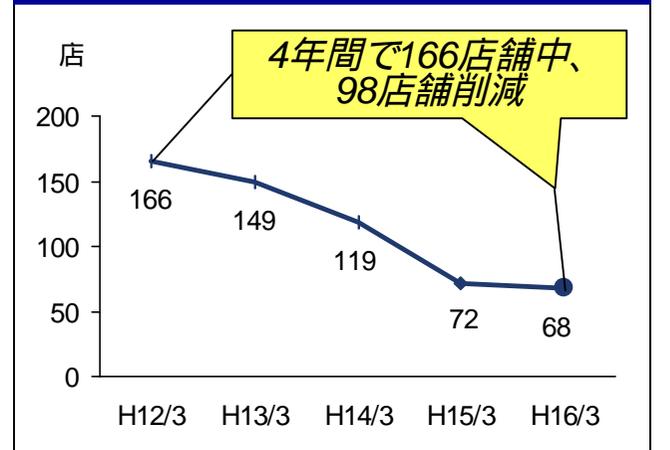
社員数 *1



経費率 (中央三井・三井アセット合算)



店舗数 (中央三井)



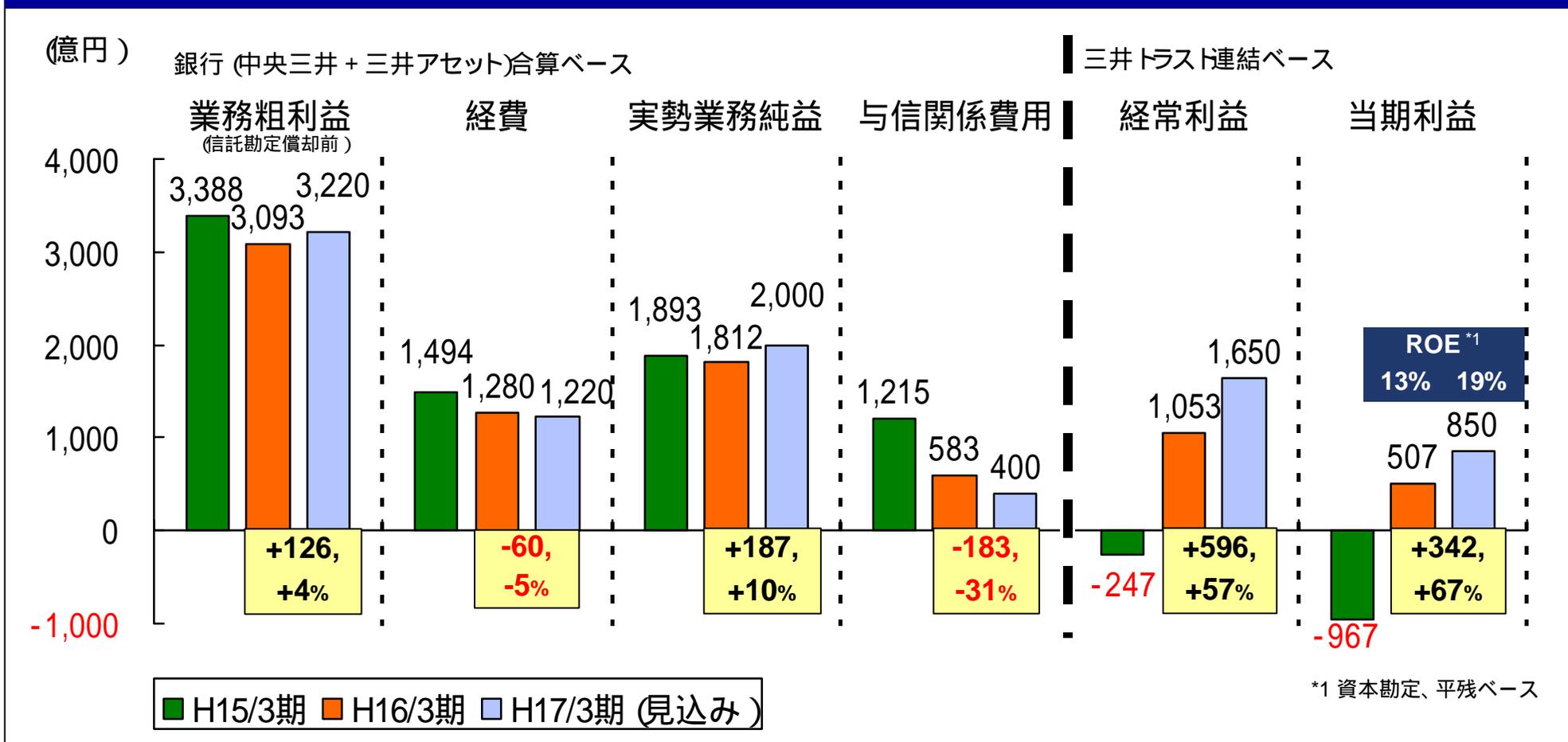
業績ダイジェスト

H17/3期見込み

- 粗利益の増加と経費削減により、業務純益は2,000億円へ
- 与信関係費用も引き続き減少し、400億円程度へ

- 経常利益、当期利益とも大幅に増加の見通し
- ROEは13%から19%へ

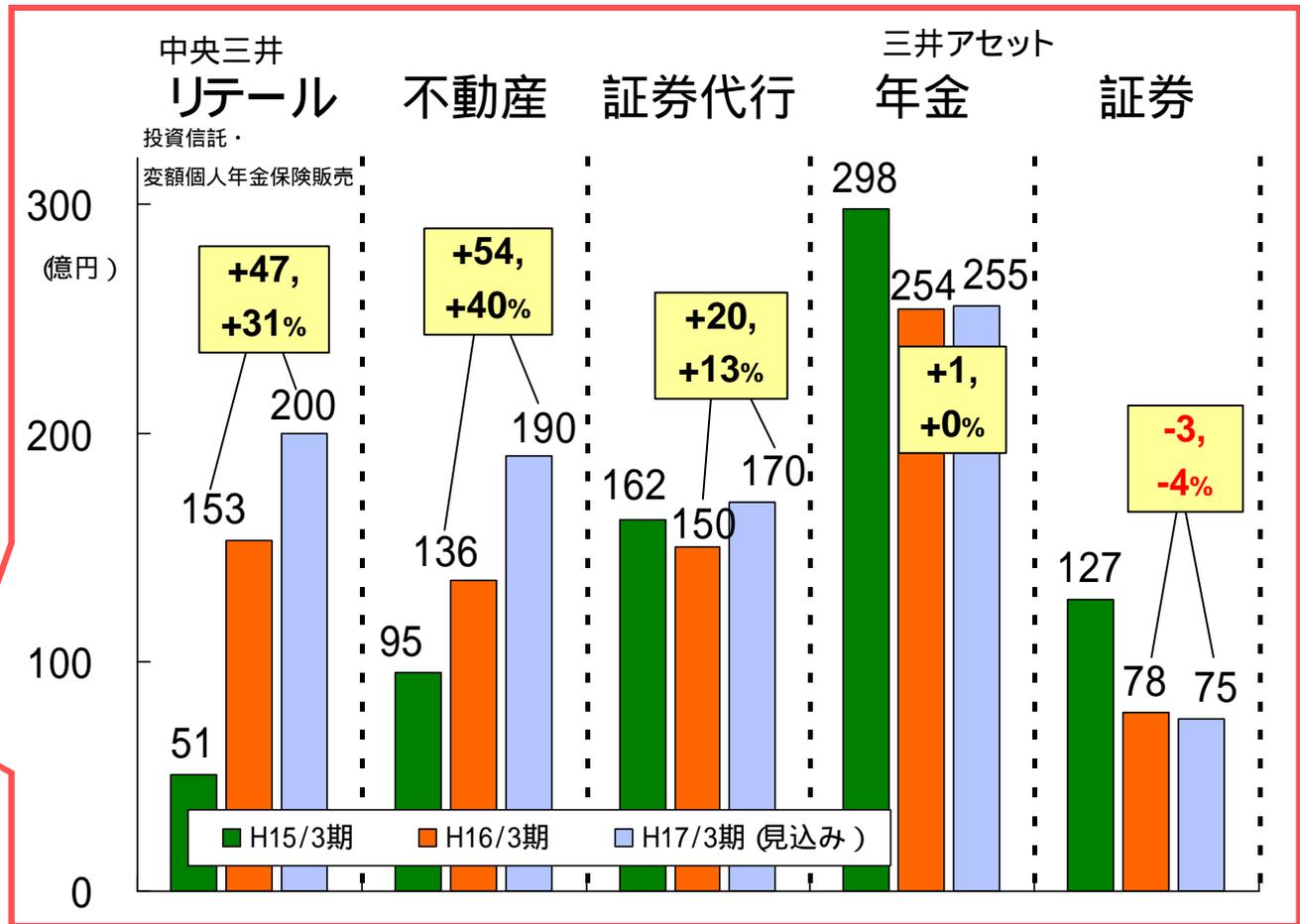
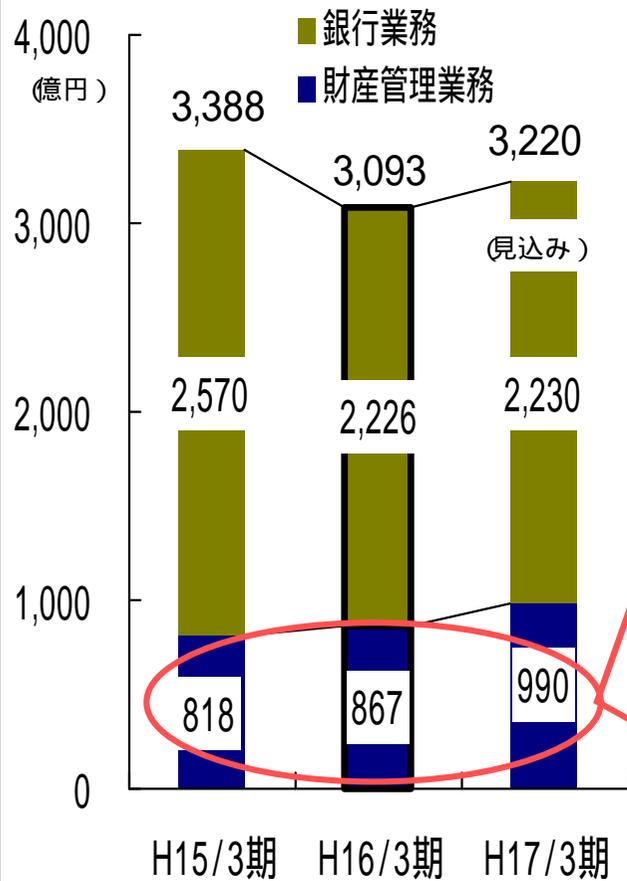
業績ダイジェスト



部門別収益状況

- 粗利益の増加は主に、財産管理業務 (手数料ビジネス) における増収による
- 財産管理業務の中でも、リテール (投資信託・変額個人年金保険販売) と不動産部門で、引き続き増収が見込まれる

部門別収益状況



業務運営状況

1. 貸出ポートフォリオの組替え
2. 手数料ビジネスの拡大

1. 貸出ポートフォリオの組替え

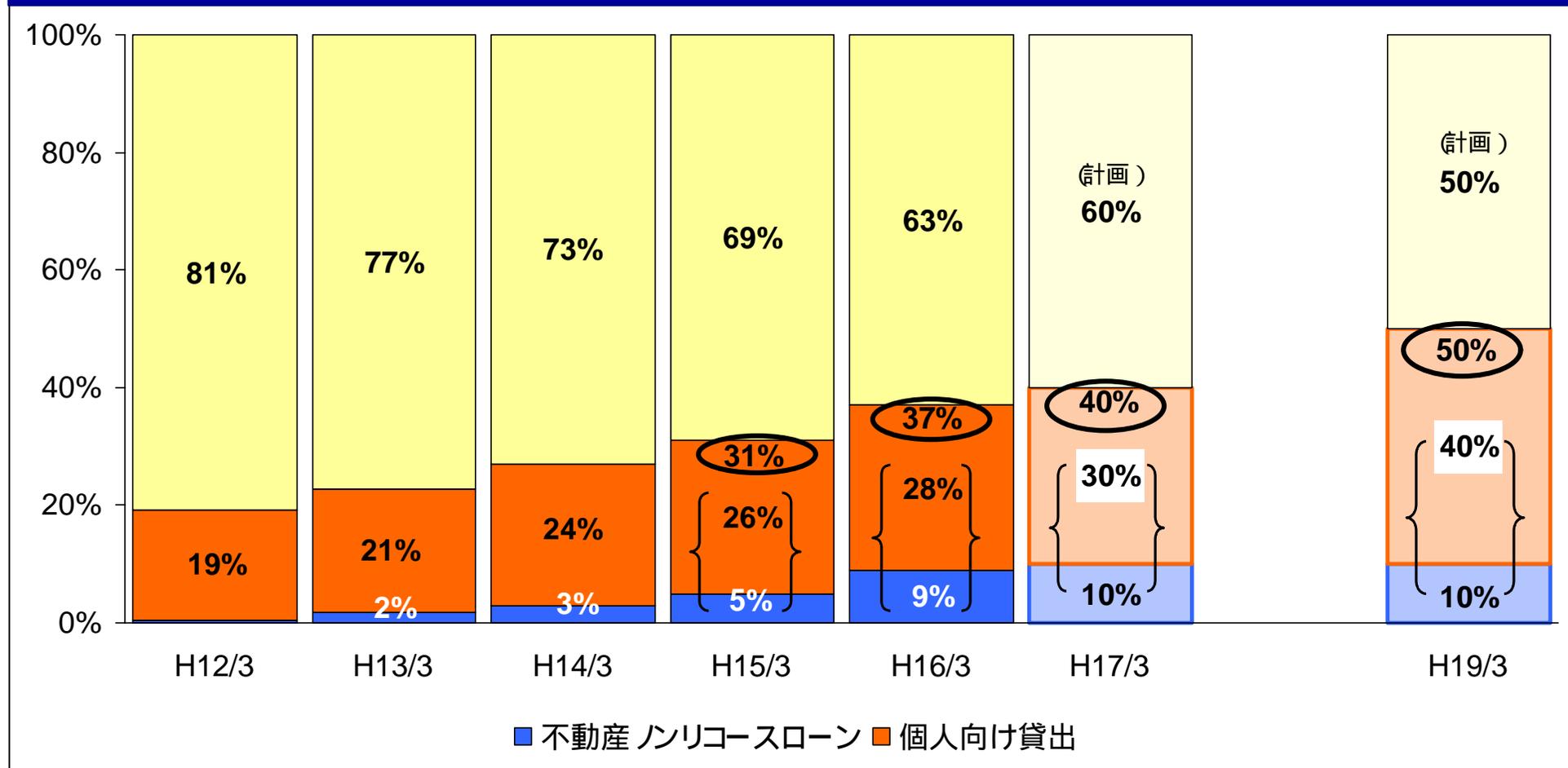
- 貸出ポートフォリオの組替え
- 住宅ローン
- 不動産アセットファイナンス
- 利回り、利ざや
- 与信関係費用、不良債権残高、不良債権比率

貸出ポートフォリオの組替え

- 個人向け貸出と不動産ノリコースローンの貸出全体に占める構成比
 - 前期実績 6ポイント上昇し 37%へ
 - 今期計画 40%まで高める計画

- 個人貸倒実績率 0.01%で安定して推移
- 不動産ノリコースローン 貸倒実績なし

貸出ポートフォリオの組替え



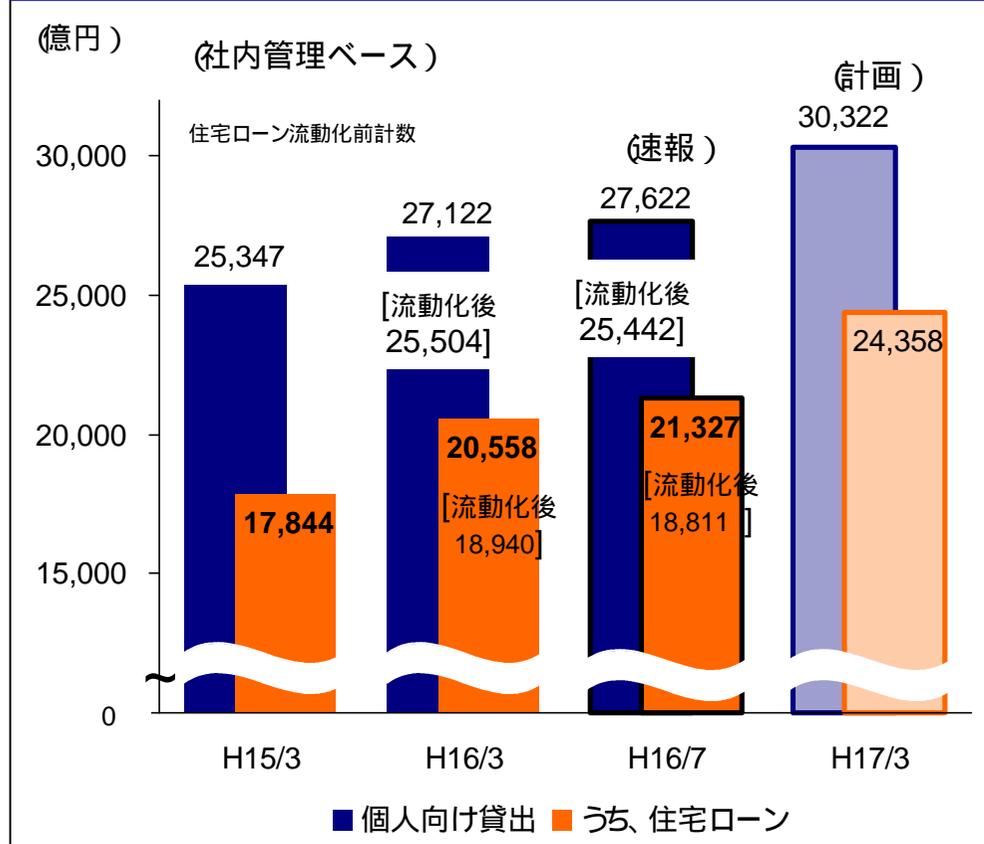
住宅ローン

前期純増額 2,714億円は過去最高、
増加率 15.2%は他の主要行平均 (+7.8%) を上回る

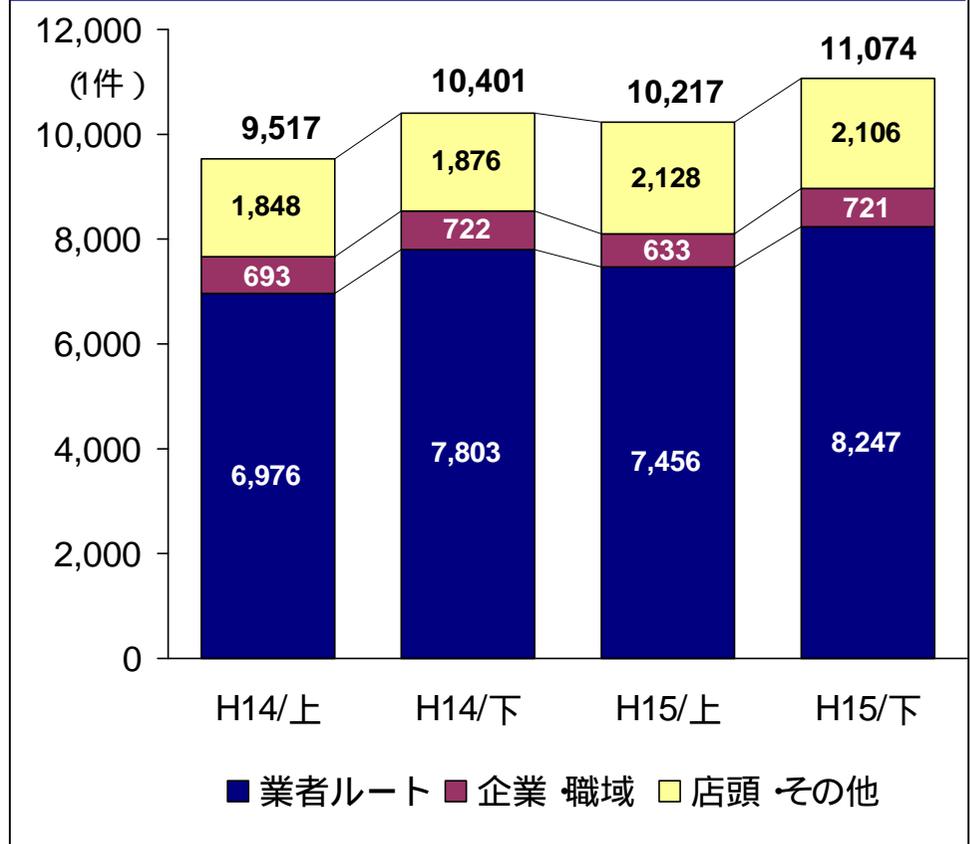
今期も好調 ~ 上期獲得目標 3,000億円に対し
7月までに 2,000億円を獲得

- “ルート・セールス”の戦略により、他社との差別化に成功
- 不動産及び住宅開発業者を最大限に活用

個人向け貸出

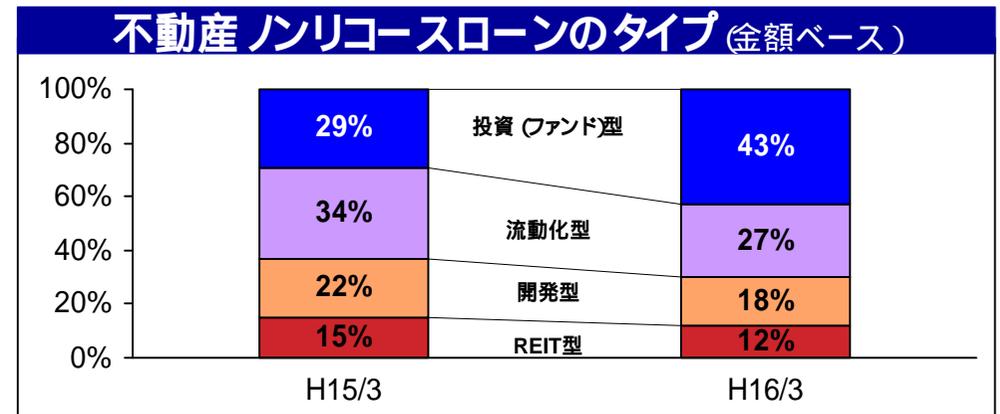
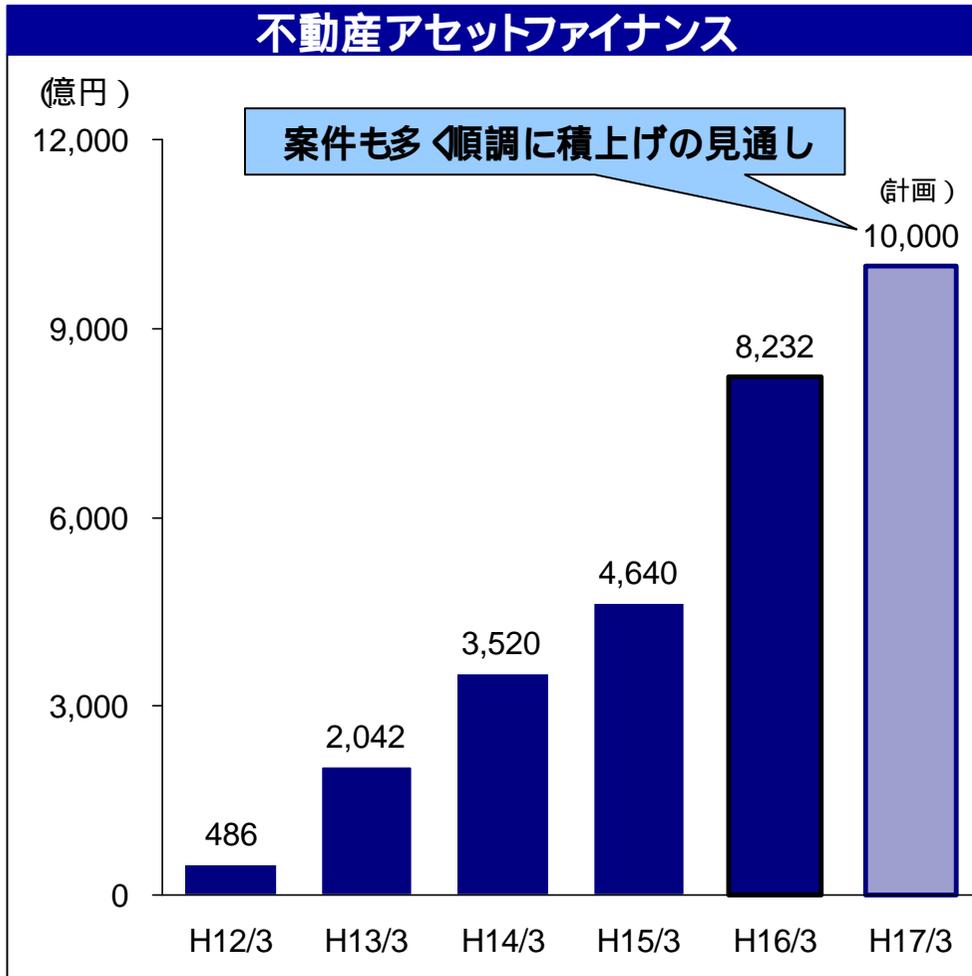


住宅ローン案件獲得ルート

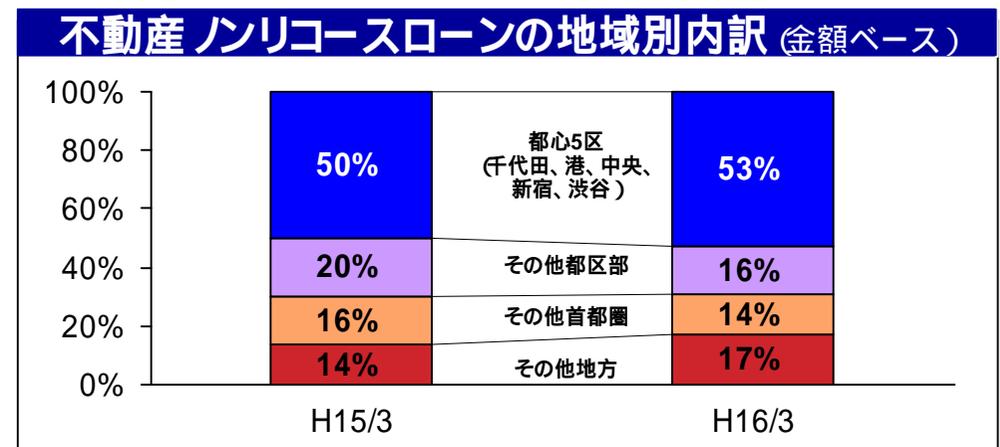


不動産アセットファイナンス

- 前期、純増額3,592億円は過去最高 ~ 投資 (ファンド)型が好調
- 今期、従前の計画を1年前倒して、1兆円へ



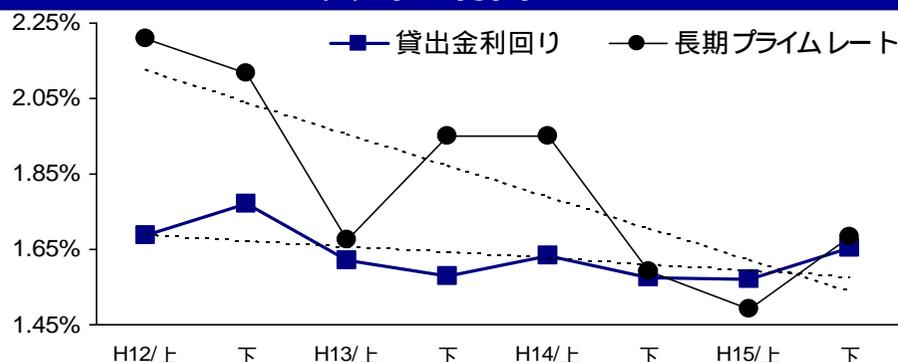
投資 (ファンド)型 : 不動産ファンド等の投資案件、流動化型 : 企業のオフバランス化案件
 開発型 : オフィス・マンション等の新規開発案件、REIT型 : REIT (投資法人) 向け貸出



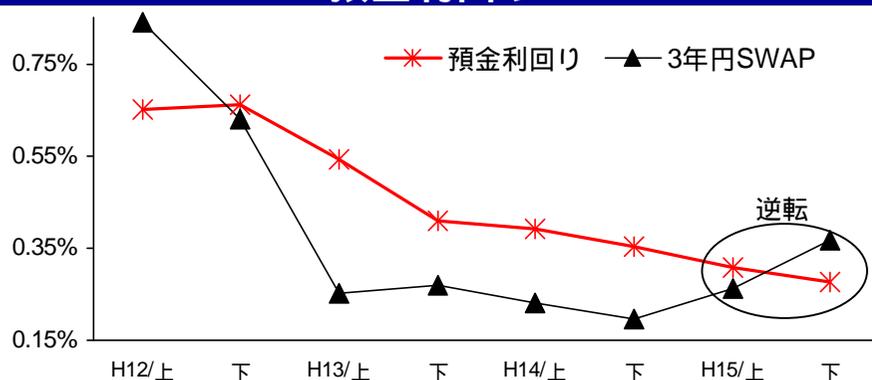
利回り 利ざや

- 貸出金利回り:個人向け貸出のウエイトが高く、同業他社よりも利回りが高い
- 預金利回り:低下トレンド継続
定期預金利回りは、前期 0.10%低下 今期も0.1%程度の低下を計画

貸出金利回り^{*1}



預金利回り^{*1}



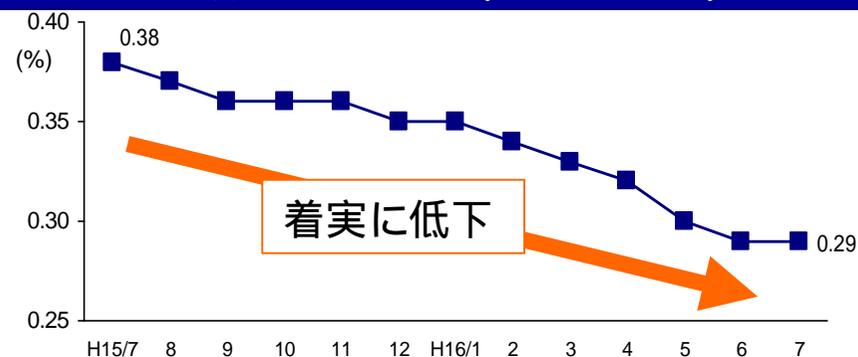
*1 銀行勘定、国内

*2 銀行勘定、国内。他社は単純平均

ご参考^{*2}

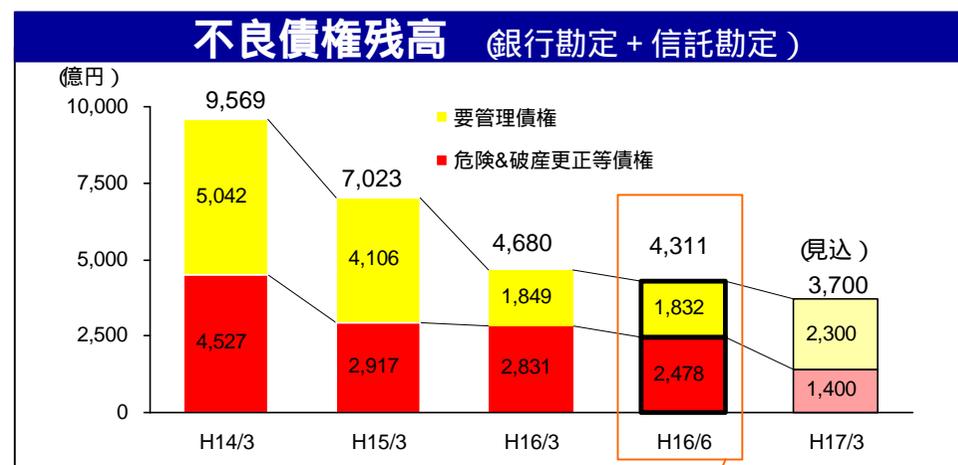
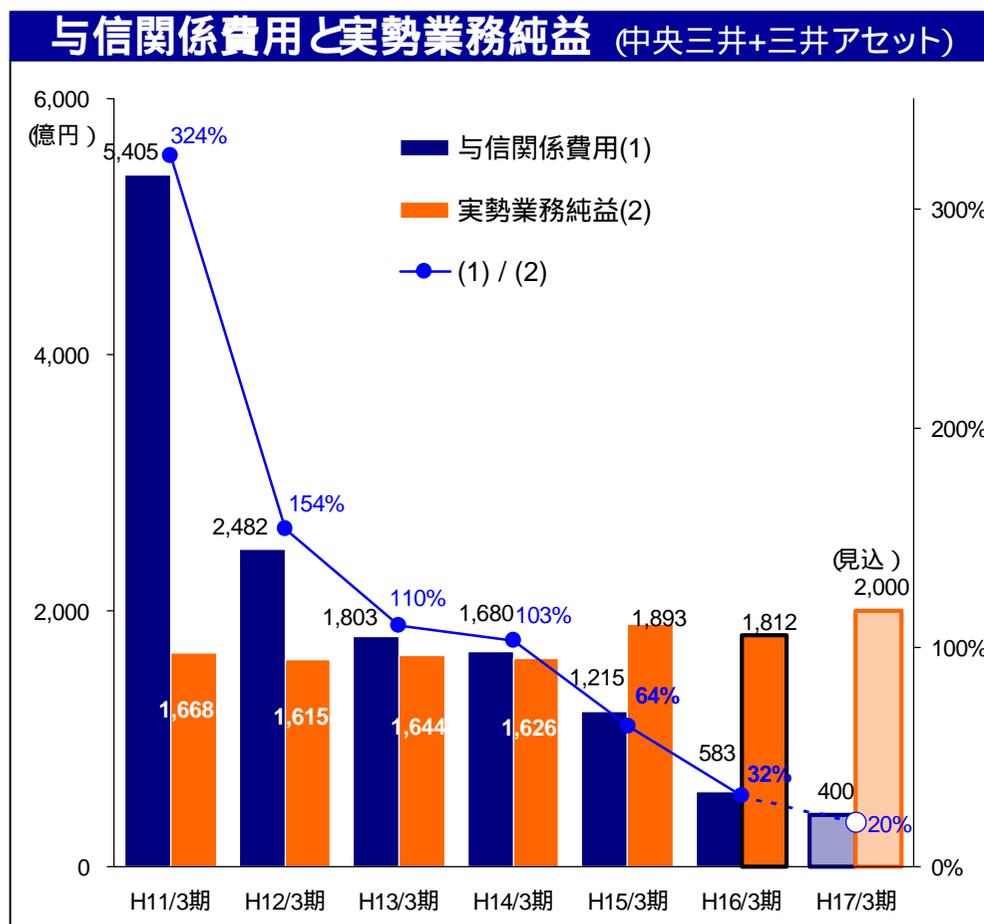
貸出金利回り	H15/3期	H16/3期	比較
中央三井	1.60%	1.61%	0.01%
他信託4行	1.44%	1.34%	-0.09%
4大銀行	1.65%	1.62%	-0.03%
預金利回り			
中央三井	0.37%	0.29%	-0.07%
他信託4行	0.26%	0.22%	-0.04%
4大銀行	0.08%	0.05%	-0.03%
預貸利鞘			
中央三井	1.22%	1.31%	0.09%
他信託4行	1.17%	1.12%	-0.05%
4大銀行	1.57%	1.57%	0.00%

定期預金利回り (社内管理ベース)

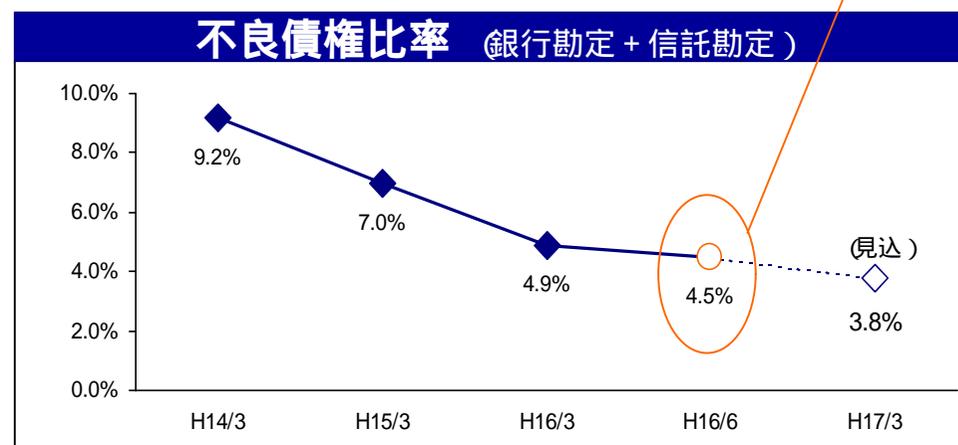


与信関係費用、不良債権残高、不良債権比率

- 前期実績 :与信関係費用は5年連続減少し、実勢業務純益の32%へ
- 今期見込み :与信関係費用は400億円程度、実勢業務純益の20%程度へ



ご参考 四半期開示 (簡易)ベース



2. 手数料ビジネスの拡大

- 投信・変額個人年金保険販売
- 不動産業務
- 証券代行業務
- 年金・証券業務 (三井アセット信託)

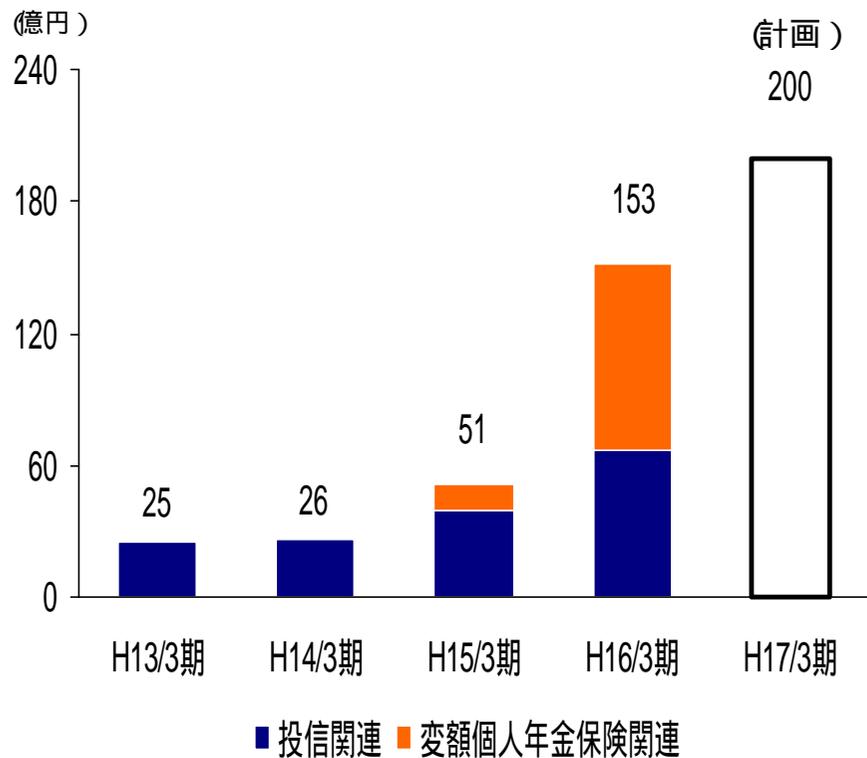
投信 変額個人年金保険販売 (i) 実績と計画

コンサルテーションの更なる充実と新商品発売等により、今期、収益200億円を計画

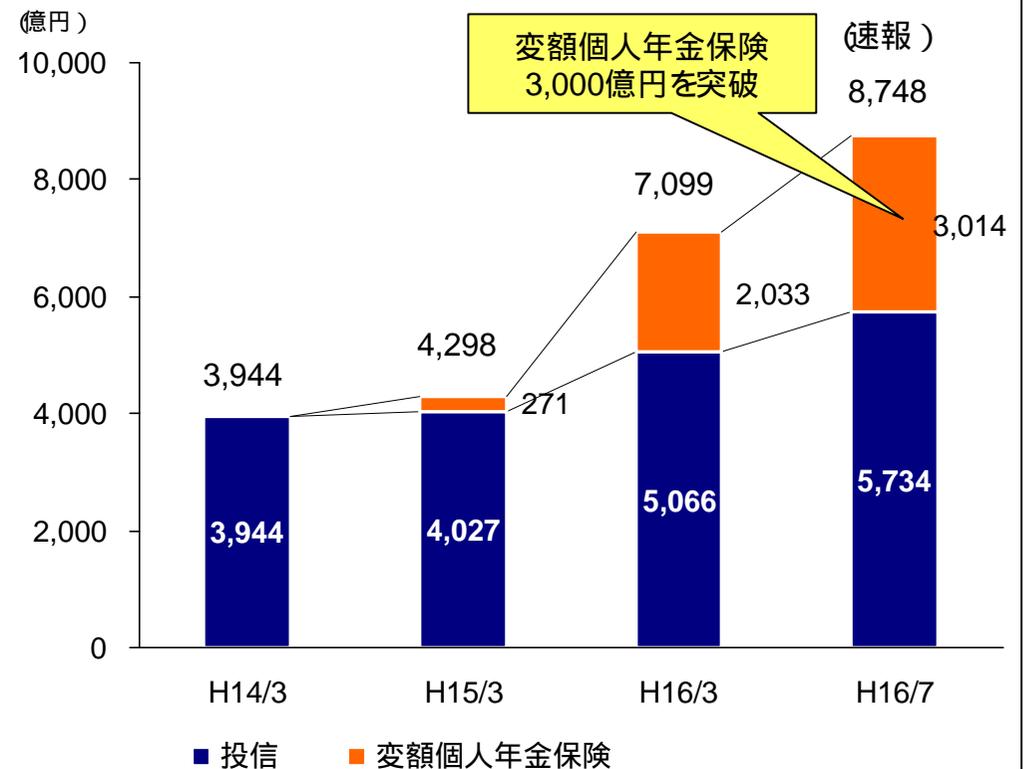
H16/4～7、4ヶ月実績:約76億円

前期実績の約半分を既に達成～計画を上回るペースで推移中

投信 変額個人年金保険販売関連手数料



投信 変額個人年金保険販売残高

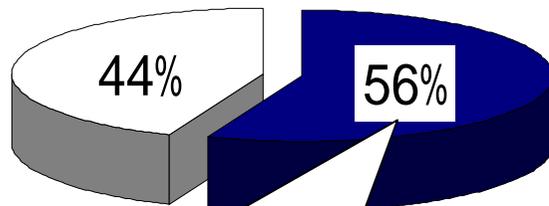


投信 変額個人年金保険販売 (ii) 強み - 1

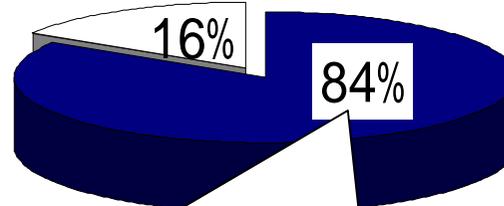
中央三井の個人顧客の特徴 : 富裕シニア層で、投信 変額個人年金保険に関心の高い顧客が多い

個人顧客の年齢別構成

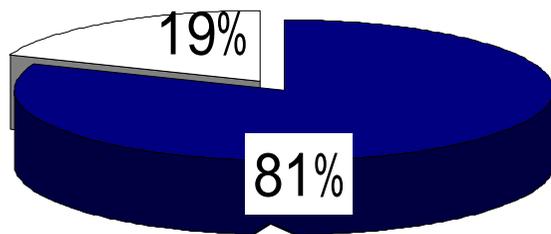
H16/3時点、名義数ベース



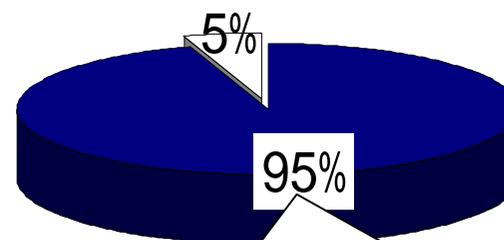
全顧客に占める50歳以上の割合



預かり資産10百万円以上の顧客に占める50歳以上の割合



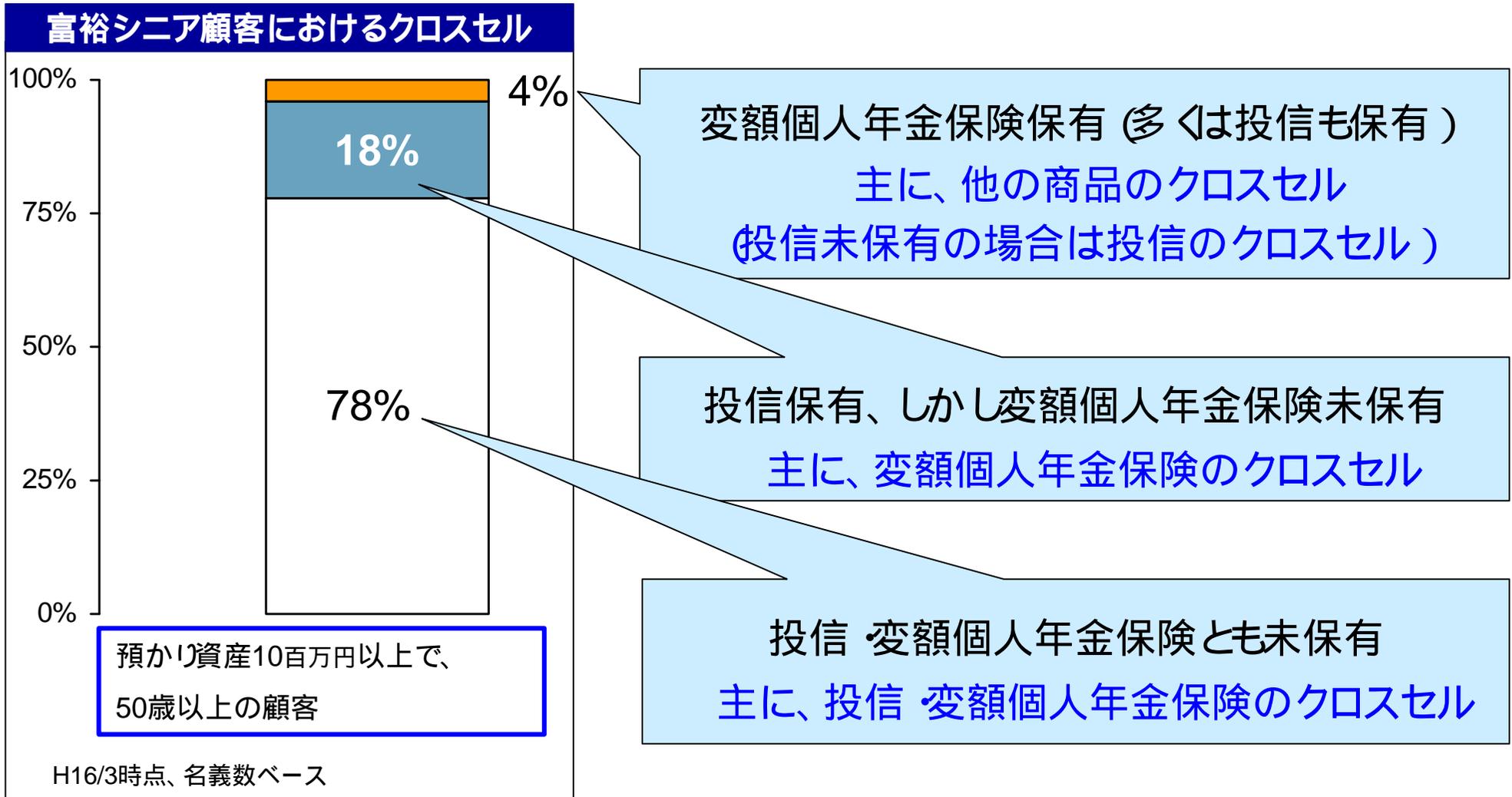
投信 変額個人年金保険保有顧客に占める50歳以上の割合



変額個人年金保険保有顧客に占める50歳以上の割合

投信 変額個人年金保険販売 (ii) 強み - 2

投信 変額個人年金保険のクロスセルをより強化

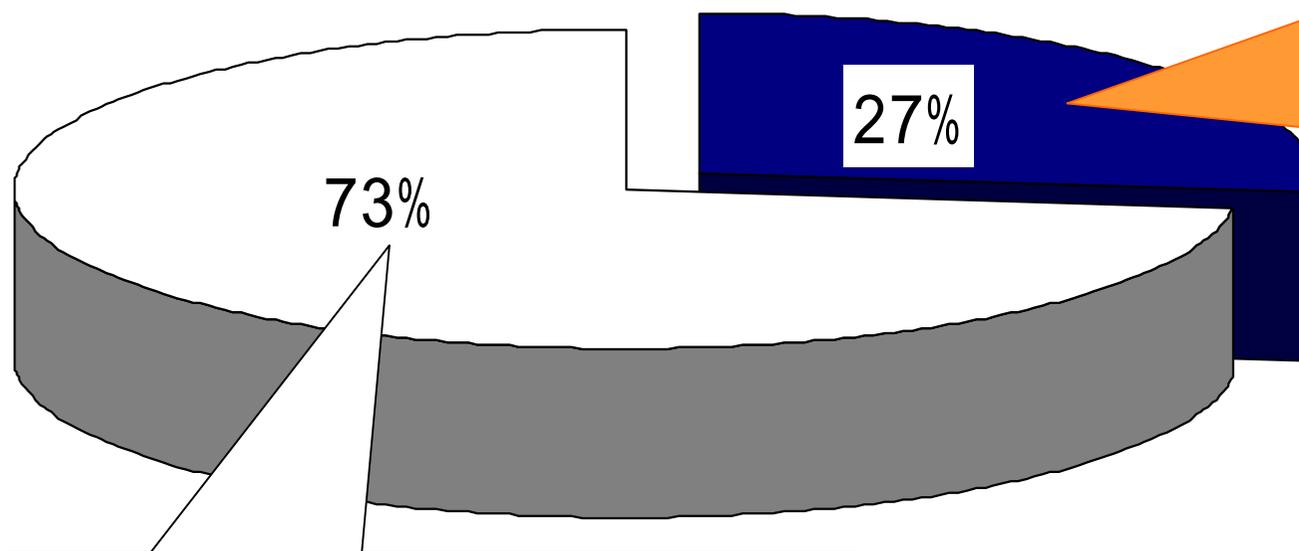


投信 変額個人年金保険販売 (ii) 強み - 3

投信 変額個人年金保険の販売により、新規顧客も獲得

投信 変額個人年金保険の入金原資

H16/4～7、金額ベース



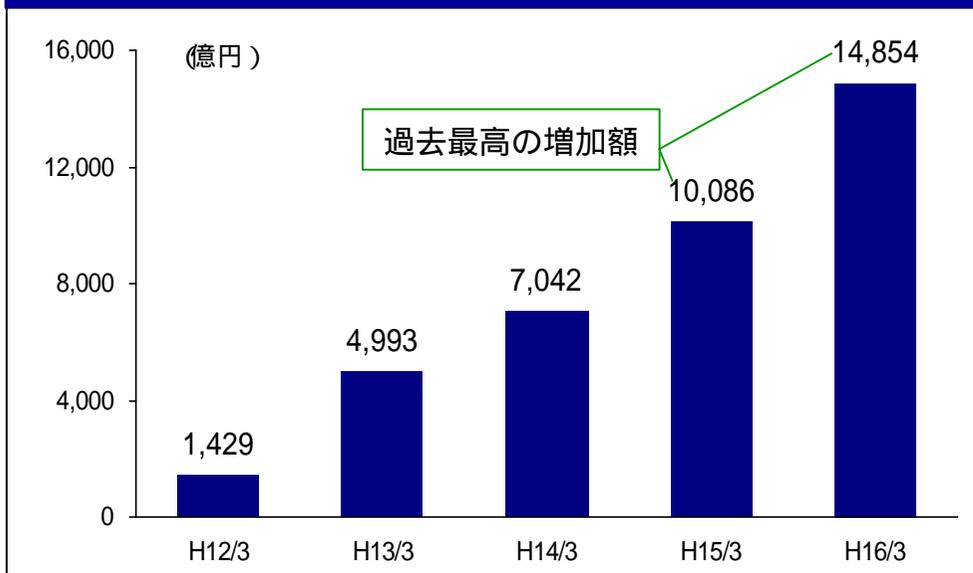
“ニューマネー”
～他金融機関等
からの獲得～
4分の1以上を
占める

貸付信託、定期預金等からの振替え

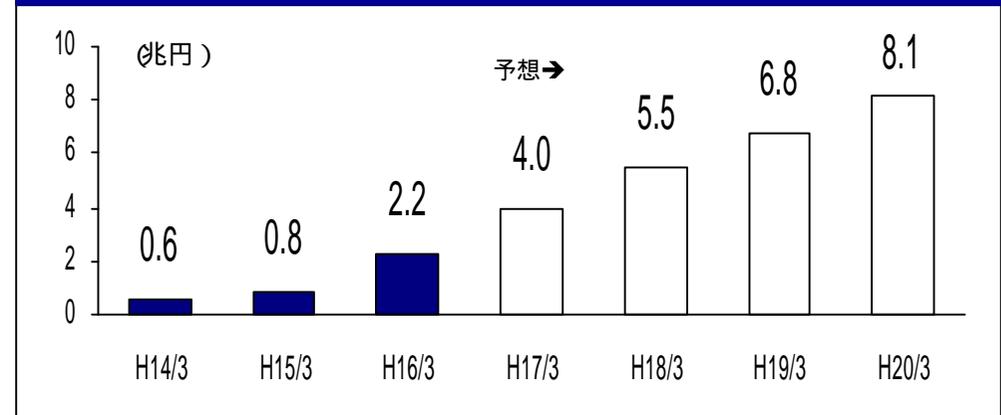
不動産業務

- 不動産市場の拡大、戦力強化等により、好調な業務部門。REIT・ファンド関連およびマンションデベロッパー向けの大型案件引き続き多い
- REITや私募ファンドの上場、組成といった不動産市場の構造変化に伴うビジネスチャンスの拡大を着実に捕捉
- 5月、三井住友銀行と共同で、不動産コンサルティング会社を設立～(株)アセットビジネスコンサルティング

不動産流動化受託残高



REITの市場規模



- 私募ファンド市場
 - ファンド数は約50本。資産規模は1兆円規模に達した模様

- 年金基金の動向
 - 現在、投資額は500億円～1,000億円規模に達していると思われる(イクティベ-ス)
 - 今後、投資が更に本格化する見込み

証券代行業務

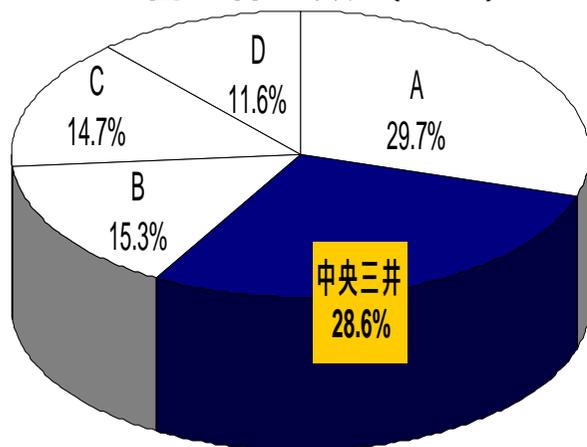
- 今期計画 企業の持合い解消、単元引下げ等の流れによる個人株主の増加等管理株主数の増加により、増収を計画

6月の大型の委託替え3件により、管理株主数 28 万名強増加

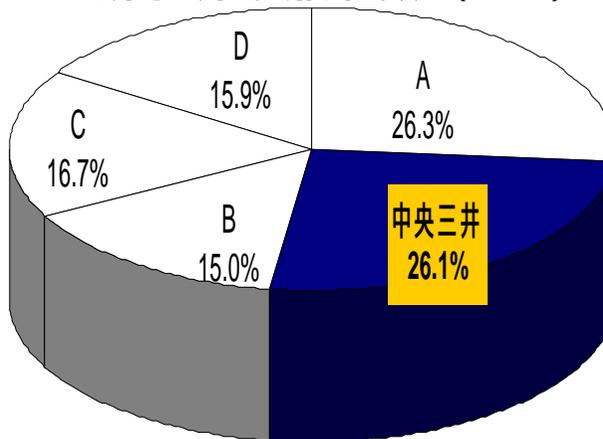
- 今後も、三井住友銀行との信託代理店効果等により、管理株主数シェアの増加を計画

業界シェア

管理株主数 (H16/6)

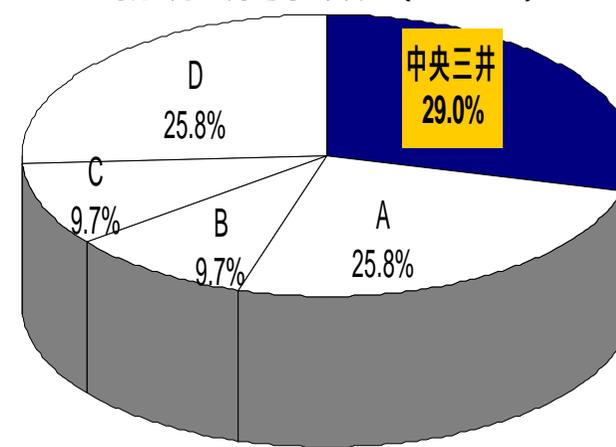


公開会社受託社数 (H16/6)



新規公開社数 (H16/4-6)

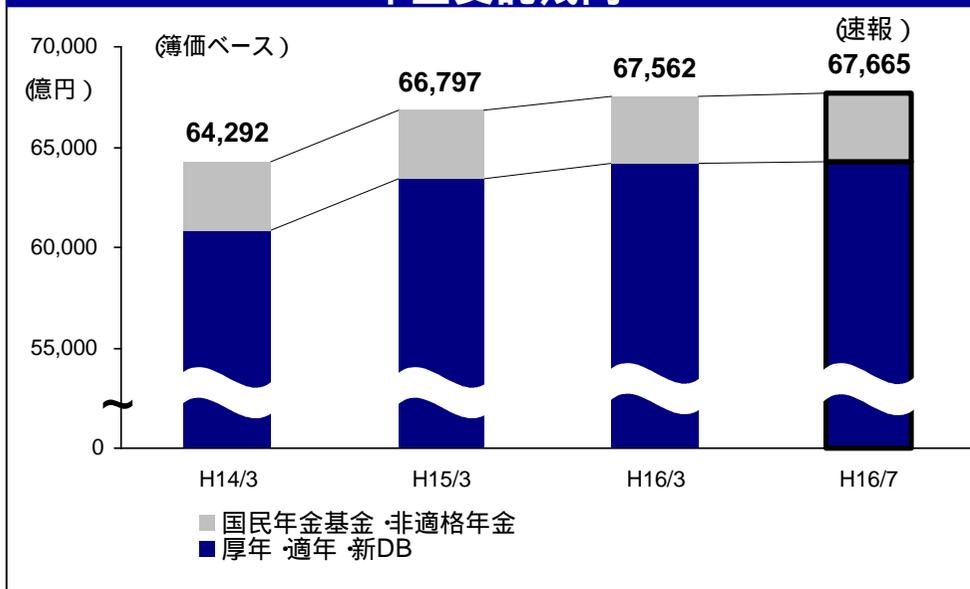
(速報)



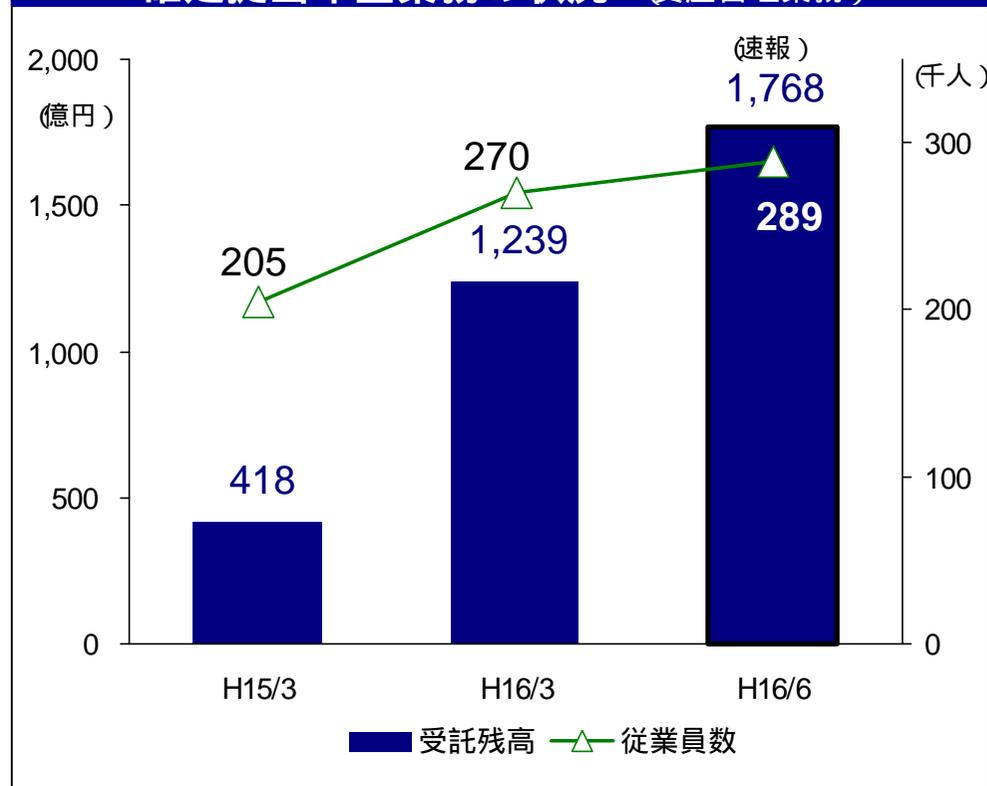
年金・証券業務 (三井アセット信託)

資産運用面、コンサルティング面でのアドバンテージをフルに活用し、オルタナティブ商品等の高採算運用商品のクロスセルを推進

年金受託残高



確定拠出年金業務の状況 (資産管理業務)



運用委託機関評価

信託銀行中 :第1位 (3年連続の第1位)
 投資顧問会社等含む全運用機関中でも、第5位
 回答が100社以上あった運用機関の中では、第1位
 (出所 H15/12/24日経金融新聞)

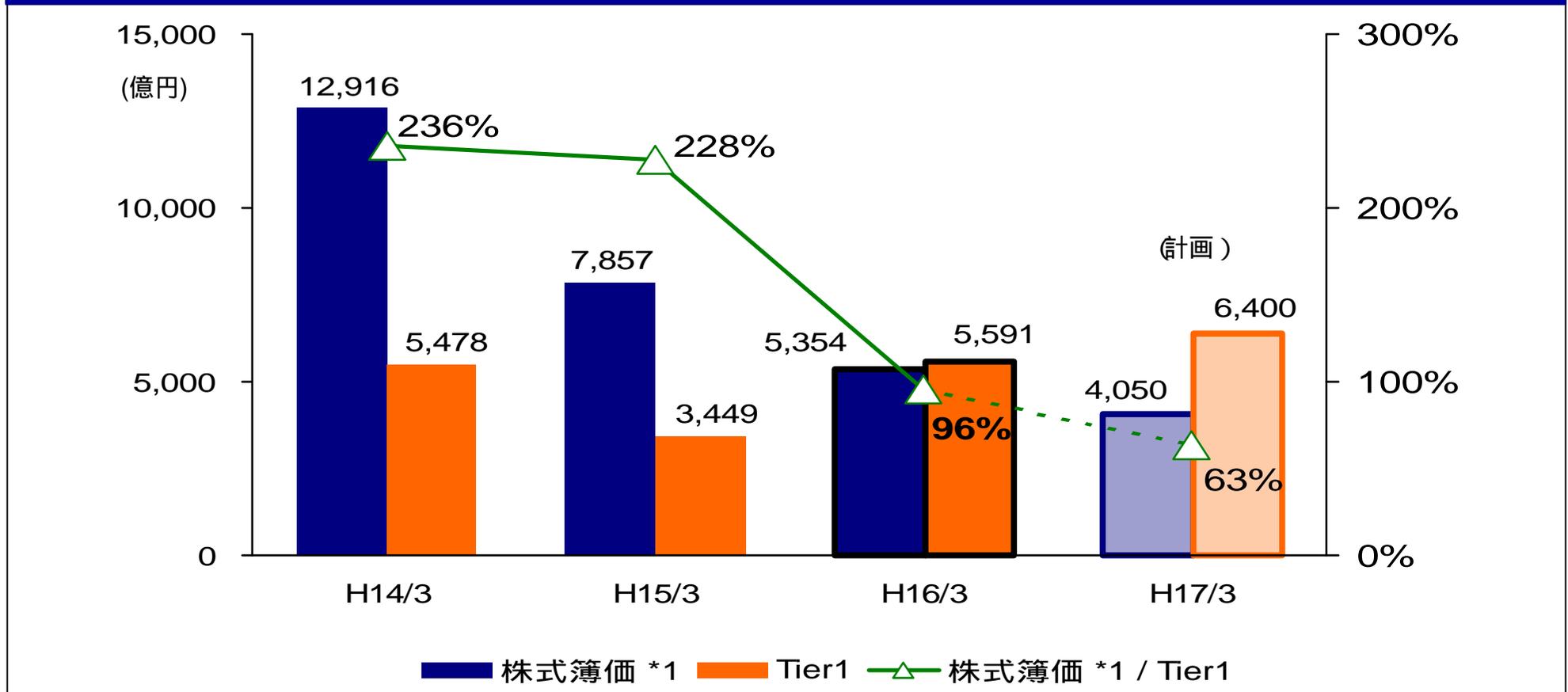
財務基盤強化

- 保有株式の圧縮
- 債券ポートフォリオ
- 繰延税金資産の圧縮

保有株式の圧縮

- H16/3に、保有株式残高はTier1の範囲内へ
- 今期 1,300億円を圧縮し、H17/3にはTier1の63%程度へ

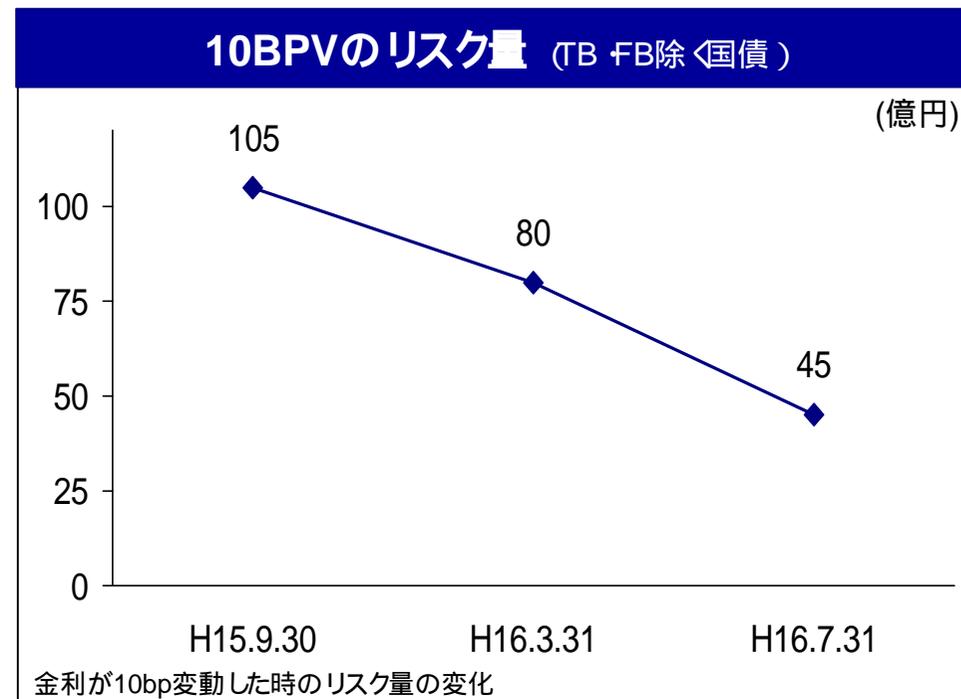
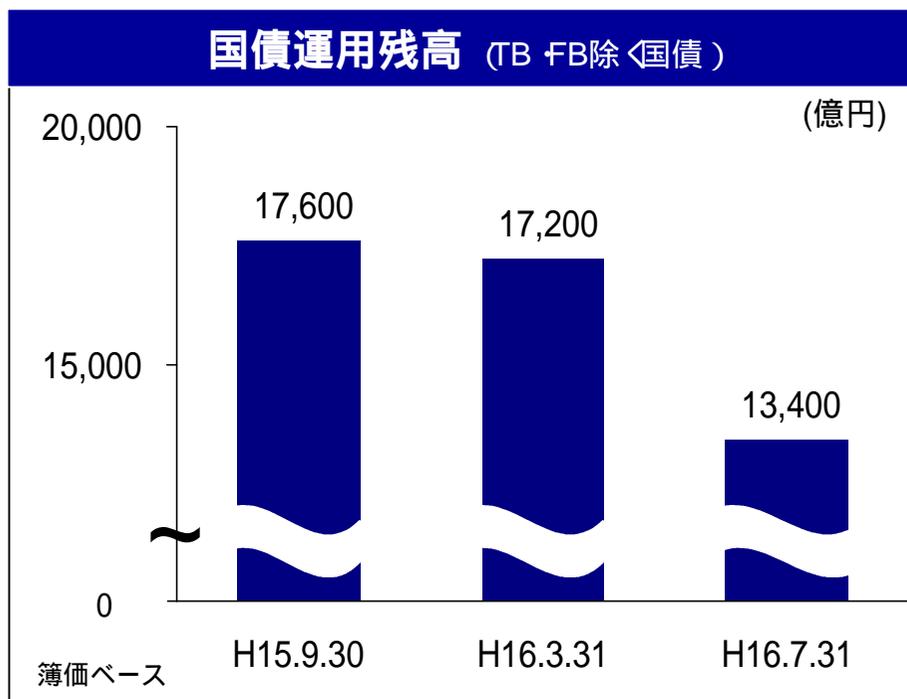
保有株式とTier1 (三井トラスト連結)



*1 H14/3, H16/3, H17/3は取得原価、H15/3はBS計上額 (H15/3は株式評価損益がマイナスのため)

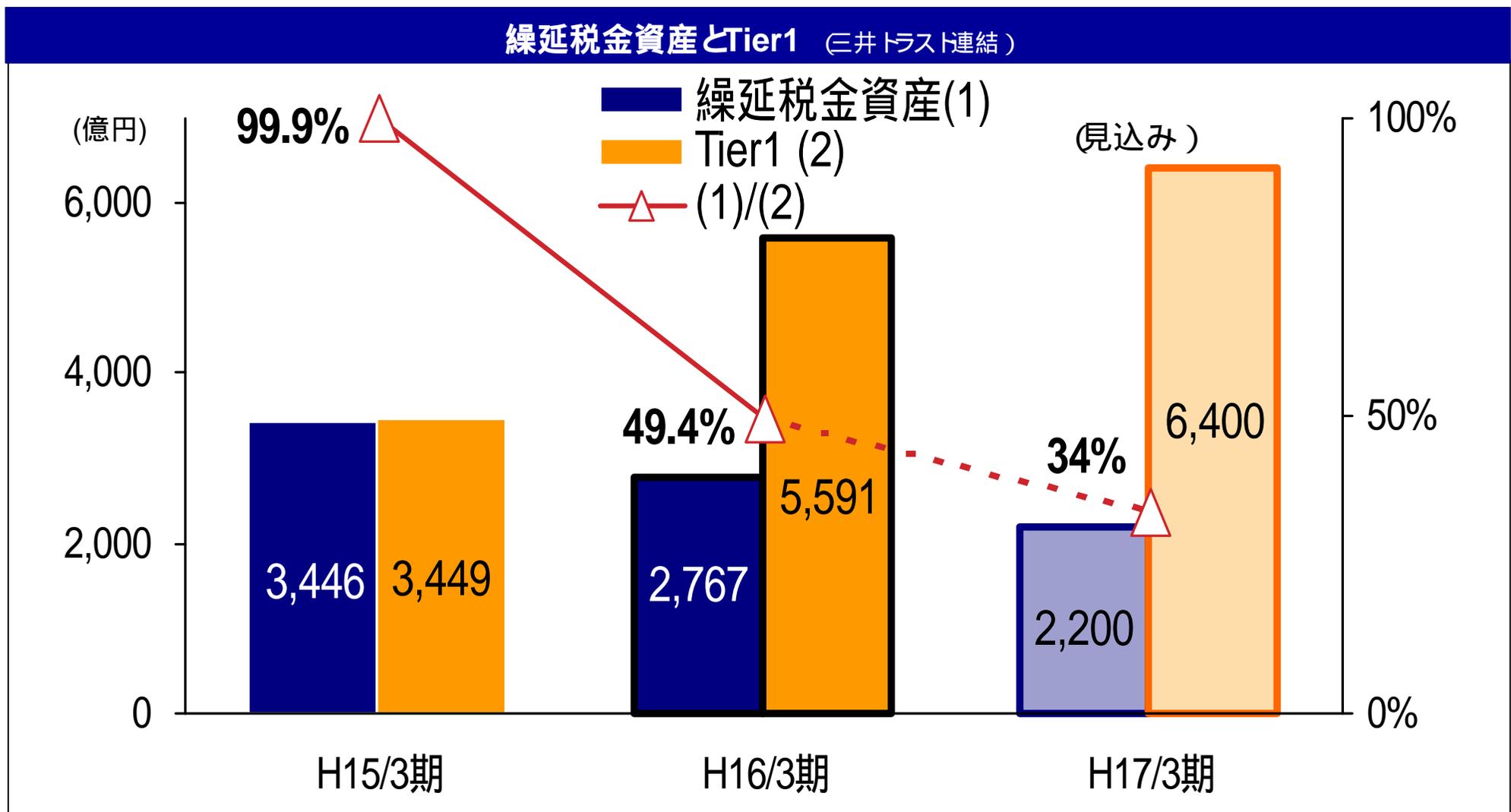
債券ポートフォリオ

円金利の上昇リスクに備え、
・残高の圧縮 ・リスク量の縮減
を実施



繰延税金資産の圧縮

■ 前期実績、Tier1比で半減 H17/3時点ではTier1の3分の1程度へ





本資料には、将来の業績に関する記述が含まれております。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化等により、目標対比異なる可能性があることにご留意下さい。